

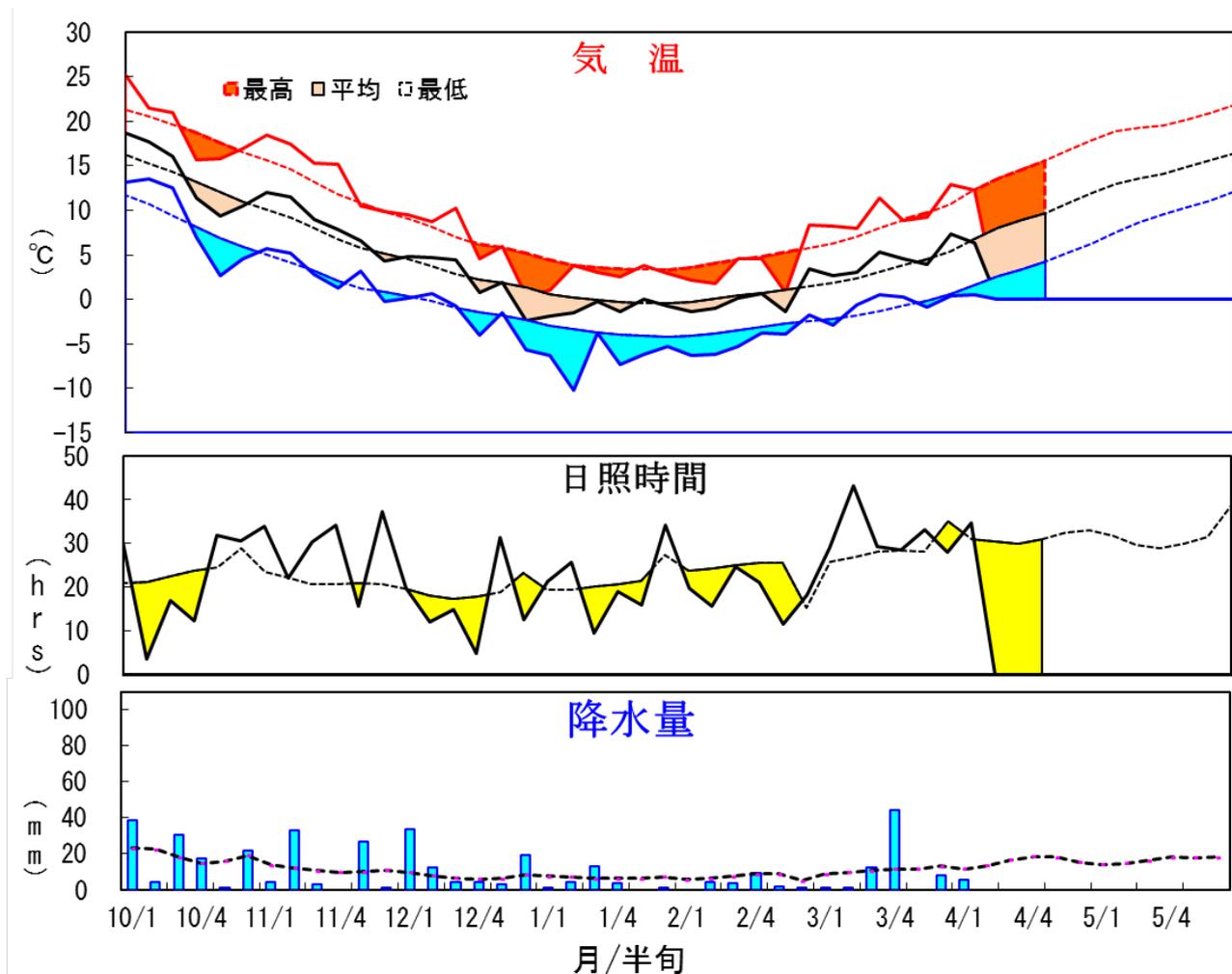
麦作情報第4号

令和4年 4月 7日：JA全農みやぎ

～今年の出穂期は平年より3～4日程度遅れる見込み！！～

～生育状況を確認し、追肥や赤かび病の防除計画を立てよう！！～

1 気象経過



◆東北地方の1か月予報【4月9日～5月8日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みである。

- ・気温は、高い確率 70%，平年並みの確率 20%，低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。

〈向こう 1 か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率（%）〉

【気 温】 東北地方	10	20	70
【降 水 量】 東北地方	40	30	30
【日照時間】 東北地方	30	40	30

2 生育状況

(1) 古川農業試験場内作況試験ほ場（3月20日現在）

- ・10月中旬播種区は、大麦・小麦とも草丈は平年を下回り、生育ステージはやや遅いが、茎数は平年並み～やや多く、生育量は平年と概ね同等になっていると考えられる。
- ・10月下旬播種区は、中旬播種区と比較して、草丈が70～80%，茎数が60～80%，葉数は80～90%であった。
- ・3月20日現在の中旬播種区の幼穂長は、大麦・小麦ともに平年より小さく、生育ステージは平年より遅れており、小麦は幼穂形成始期には達していない。
- ・下旬播種区の大麦の幼穂長は1.1～1.2mmで、3月中旬頃に幼穂形成始期に達したと推定される。小麦の幼穂長は0.3～0.4mmで、幼穂形成期には達していない。大麦の幼穂長は中旬播種区と比較すると約60%，小麦では30～50%程度の大きさであった。

	品種・播種期	草丈		茎数		葉数		幼穂長		幼穂形成期		
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年差 (%)	本年 (mm)	平年差 (mm)	本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)
大麦	シュンライ 中旬	10.8	77	987	103	6.4	▲ 1.1	2.0	▲ 1.1	2/26	2/20	1/30
	同 下旬	7.5	-	585	-	5.4	-	1.2	-	3/14	3/13	-
	ミノリムギ中旬	11.8	84	1020	104	6.4	▲ 1.4	1.8	▲ 0.9	3/2	2/21	2/11
	同 下旬	8.1	-	700	-	5.9	-	1.1	-	3/16	3/10	-
小麦	シラネコムギ中旬	11.6	74	937	100	7.2	▲ 0.7	0.9	▲ 0.6	-	3/16	3/4
	同 下旬	8.0	-	755	-	5.9	-	0.3	-	-	3/25	-
	夏黄金 中旬	9.4	-	749	-	7.1	-	0.8	-	-	3/15	-
	同 下旬	7.8	-	464	-	5.9	-	0.4	-	-	3/26	-

- ・現在の生育ステージから予測すると、大麦の減数分裂期は4月第5半旬～第6半旬頃、小麦は4月第6半旬～5月第1半旬頃と推測される。
- ・また、大麦の出穂期は4月末～5月第1半旬頃、小麦は5月第2～第3半旬頃と推測される。開花期は出穂後5～7日程度と推測される。今年の出穂期は、平年に比べ3～4日遅くなる見込みである。
- ・今後の気象経過によって生育ステージは変動するので、幼穂長を確認しながら減数分裂期の追肥作業等を計画する。

	品種・播種期	減数分裂期			出穂期			開花期		
		本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)	本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)	本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)
大麦	シュンライ 中旬	4/21	4/13	4/16	4/29	4/23	4/25	5/4	4/29	5/1
	同 下旬	4/24	4/21	-	5/2	4/28	-	5/7	5/5	-
	ミノリムギ中旬	4/23	4/17	4/19	5/2	4/29	4/28	5/7	5/5	5/4
	同 下旬	4/27	4/23	-	5/5	5/3	-	5/10	5/7	-
小麦	シラネコムギ中旬	4/27	4/25	4/25	5/7	5/4	5/4	5/17	5/15	5/14
	同 下旬	5/4	4/28	-	5/13	5/8	-	5/22	5/16	-
	夏黄金 中旬	4/29	4/24	-	5/7	5/4	-	5/17	5/14	-
	同 下旬	5/3	4/27	-	5/11	5/7	-	5/20	5/15	-

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から、下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は無い。

注3) 本年予測値は「麦類の生育ステージ予測シート」を用いて主茎幼穂長から試算した現在値で、今後の生育・天候等で変動がある。

注4) 減数分裂期は幼穂長が3cmに達した日。出穂期は全茎の40～50%が出穂した日。開花期は全穂数の40～50%が開花した日。

(2) 県内麦類生育調査ほ (3月20日現在)

- ・播種が遅かったほ場や、ほ場内に停滞水が発生した所では、茎数をはじめ生育量が不足気味である。
- ・大麦は、概ね幼穂形成期に達したと考えられる。
- ・小麦は、これから幼穂形成期を迎えると推測される。

	品種・区分	地域	播種期	草丈		茎数		幼穂長	
			本年 (月/日)	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (mm)	平年差 (mm)
大麦	シュンライ	大河原	11/15	8.1	63	468	60	1.1	▲ 1.3
		桃生	10/10	15.2	106	1,157	169	4.2	1.7
	ミノリムギ	10/22	14.1	89	866	132	1.7	▲ 0.7	
	ホワイトファイバー	大河原	10/25	9.4	-	585	-	1.7	-
		大和	11/1	6.6	-	302	-	1.0	-
小麦	シラネコムギ	古川	10/30	8.9	72	803	76	0.9	▲ 0.1
		鹿島台	11/3	8.8	62	302	24	0.3	▲ 0.6
	小船越	10/10	20.3	153	1,411	230	1.0	0.5	
	夏黄金	涌谷	11/4	7.9	66	733	77	0.5	▲ 0.4

3 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ・今年は積雪が多く、積雪の期間が長かったほ場も見られる。融雪とともに明渠が崩れ滞水している恐れがあるので、ほ場をよく見回り、停滞水が発生している場合は早急に改善する。
- ・6月の成熟期に近くなると湿害の影響がより顕著になるので、早めに手直し作業を実施する。

(2) 追肥

- ・大麦においては、穂揃期の追肥は硬質麦の発生を助長するので実施しない。
- ・追肥の目安については、下表を参照のこと。

追肥の種類 (生育ステージ)		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	シュンライ, ホワイトファイバー ミノリムギ	2月下旬～3月中旬 3月上旬～4月上旬	4月下旬 4月下旬～5月上旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	硬質麦防止のため 実施しない
小麦	時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※「夏黄金」は2倍

(3) 赤かび病の防除

- ・赤かび病は、開花期前後にかけて降雨が続き、気温が20～27℃の場合に発生が多くなる。
- ・防除適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目がその7～10日後で、降雨が続く場合は追加防除を検討する。
- ・「シラネコムギ」では、開花期が早くなるほど発病リスクが高まる。
- ・「夏黄金」の赤かび病抵抗性は「ゆきちから」よりやや強いが、「中」程度なので「ゆきちから」と同様に3回防除を基本とする。